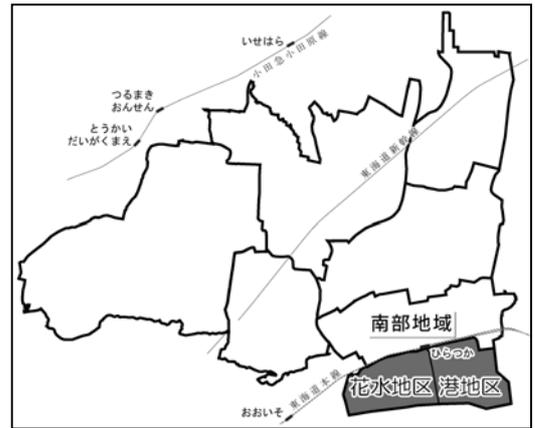


1 南部地域のまちづくり方針

(1)地域のあらし

■位置・面積

- ・南部地域は JR 東海道本線の南側に位置し、平塚海岸、相模川、花水川の水辺に囲まれています。かつては平塚町と須馬町に属し、昭和7年4月に平塚市に変わりました。
- ・地域の面積は 544.8ha で全市の約 8%を占めます。うち花水地区は 279.7ha、港地区は 265.1ha です。
- ・花水地区は花水小となでしこ小学校区、港地区は港小学校区が含まれます。



■人口・土地の利用

- ・人口は全市の約 16%を占めます。花水地区は横ばい傾向、港地区は増加傾向にあります。(平成 17 年国勢調査)
- ・市街化区域*は、相模川などの水域以外の地域全体に及び、成熟した雰囲気のみちとなっています。
- ・海や川に面しており、全体的に松などが残る、落ち着いた環境のある住宅地となっており、教育施設が多いのが特徴です。
- ・平塚駅周辺では商業地が形成され、古くから港町と共に栄えた須賀港への道路や西海岸マリンロードなどの沿道には地域に密着した商店街が形成されています。
- ・昭和 20 年の空襲から市街地を復興するため、戦後すぐに戦災復興土地区画整理事業などを実施しており、港地区を中心に地域の約 30%が新しいまちとなりました。

■地域の資源

- ・平塚海岸は、古くから漁業が盛んでしたが、平成 3 年に湘南ひらつかビーチパーク*が誕生し、平成 12 年に海洋レクリエーションにも対応できる新港が整備され、漁業だけでなくマリンレジャー*も盛んに行われるようになり、一年を通じていろいろな人でにぎわう拠点となりつつあります。
- ・平塚海岸には相模川から花水川まで約 4.8 km の砂丘と松林が続いています。
- ・扇松海岸通りの路上の「くろまつ」は通称、扇の松と呼ばれ、本市を代表する景観資源の一つに数えられます。



平塚海岸（手前が新港）



袖ヶ浜の扇の松

(2)地域の主な課題

■道路と交通の課題

- ・国道 134 号は慢性的に渋滞しており、また、このため生活道路に自動車が流入しています。このため渋滞と自動車の流入を解消することが課題です。

■住まい環境の課題

- ・戸建ての多い住宅地のなかで中高層マンションの立地や宅地の細分化が見られ、景観やみどりなど、良好な居住環境の保全が課題です。

■地域の資源をいかすための課題

- ・平塚海岸や地域の象徴となる松をいかすため、その保全が課題です。
- ・平塚駅南口広場から、ひらつかの海を感じることができるよう、海に向かう通りをいかすことが課題です。



国道 134 号の渋滞



須賀港

(3)地域のまちづくりの目標と将来像

■まちづくりの目標

- 落ち着きと質の高さを誇る住まい環境の形成
- 松など、身近にみどりや花が豊富にあるまちの形成
- ひらつかの海を中心とした広域観光の創出

■将来像

落ち着きと質の高さを誇る住まい環境と、 海をいかした新たなにぎわいのあるまち

潮風と広い空を感じる南部地域は、松林や別荘地の面影を伝える質の高い開放的な街並みが広がり、海の魅力や楽しさを求めて多くの人を訪れる新たなにぎわいのあるまちをめざします。

(4)地域の分野別の方針

(4)－1 道路と交通

■道路一般

- ・国道 134 号の慢性的な渋滞に対応するため、段階的な整備を進めます。
- ・平塚海岸秦野線など、未整備となっている都市計画道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通確保のため、既存の道路空間をいかに再配分することにより、歩道や右折レーンを確保するなど、効率的で効果的な道路整備を進めます。
- ・平塚駅南口は駅周辺の駐輪対策などとあわせて、海に向かう玄関口にふさわしい広場整備を進めます。

■歩行者空間、自転車利用環境

- ・なぎさプロムナード*などを始め、歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間確保や、交通安全施設などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用を進めるため、また、街なか観光の交通手段にもなるよう、既存の道路空間から自転車走行空間を創出し自転車ネットワークの形成に努めます。中心地域（JR東海道線の北側）など、他地域とつなぐことも重視します。

(4)－2 住まい環境

■住宅地

- ・地域全体に大きく広がる住居系市街地は、質の高い低中層の住宅地として、居住環境を保全します。必要に応じて地区計画*の導入を検討します。
- ・住宅が密集し、道路などが不足しているところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。
- ・大浜地区は、居住環境や防災性を高めるため、生活道路などの公共施設整備を土地区画整理事業により進めます。

■商業地・業務地

- ・平塚駅周辺は本市の南の核にふさわしい魅力ある商業施設やサービス施設などの立地を誘導し、土地の高度利用を進めます。

■近隣商業地または沿道市街地

- ・地域生活に密着した身近な商店街は、商店街自体の維持と魅力づくりに向けた取組みを検討します。

■工業地

- ・相模川沿いの工業系市街地は、工場外周部の緑化を誘導すると共に、工場の生産環境を維持するため隣接する住宅地との調和を進めます。

■公共公益施設

- ・平塚市民活動センター、南部福祉会館、みなと子どもの家、地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。

(4)ー3 景観やみどりと水辺

■代表的な景観

- ・海岸からの富士山の眺望を大切にし、広々とした砂浜や松林がつながる開放的な海岸景観を維持及び保全します。
- ・南口広場やなぎさプロムナードは、海に向かう玄関口にふさわしい、潮風を感じる魅力的な空間の創出に努めます。
- ・別荘の面影を受けつぐ閑静な住宅地は、風致地区[※]の適正な維持及び地区計画[※]の導入などにより、うるおいある景観形成に努めます。

■みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・平塚海岸にある松林や砂浜は、貴重なみどりや自然景観として、レクリエーションや交通環境との共存による適正な維持及び保全に努めます。
- ・松林周辺の風致地区は、市街地の動向や周辺の住環境との調和に配慮した適正な管理を行い、良好な住環境の形成に努めます。
- ・相模川の河口干潟は、相模湾奥部で唯一の干潟環境であり、シギ・チドリ類、カモメ類に代表される水鳥が多く、相模湾の干潟生物の重要な生息場となっているため、保全に努めます。

■公園や広場

- ・桃浜公園や小波公園の整備にあっては、都市計画公園として、その位置の適正な配置に努めます。
- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また、地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5)地域の資源をいかした魅力づくりの方針

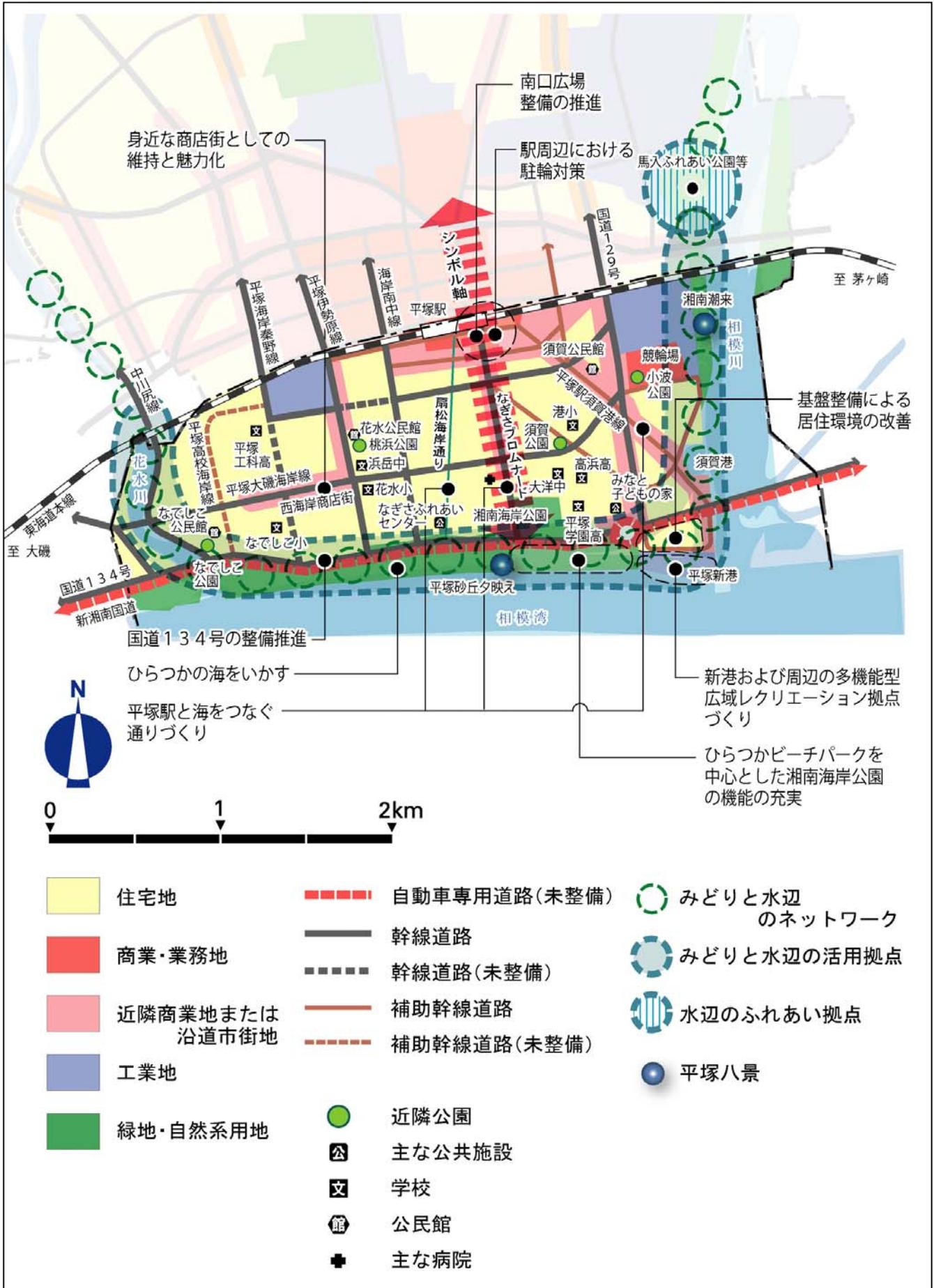
■ひらつかの海をいかす

- ・平塚海岸から相模川または花水川に至る海辺と川辺は、水に親しむことのできる空間です。ビーチパークや新港、さらに中心地域の馬入ふれあい公園などのレクリエーション施設を相互につなぎ憩いの場となるよう、歩行者や自転車利用者のためのネットワーク化を進めます。また、平塚海岸は、より良い海辺を守るため、砂浜の浸食対策や砂浜の養浜[※]、松林の保全を進めます。

■平塚駅と海をつなぐ通りづくり

- ・平塚駅と海をつなぐ、なぎさプロムナード、平塚駅須賀港線、扇松海岸通りにおいては、駅から海につながるそれぞれの特性をいかした通りづくりに努めると共に、沿道の街並みと通りの景観が調和するまちづくりを進めます。

南部地域のまちづくり方針図



地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、「様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組み」であり「地域自らが行う」ことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

■例1：質の高さを誇る住まい環境を持続する

落ち着きと質の高い住まい環境を持続するためには、宅地の細分化の防止や敷地内みどりの維持、適切なゴミ出しなどといった地域主体のルールがあることが望まれます。

このためには、一定の地区において、事業所も含め住民同士で目標とする住宅地や街並み景観のあり方を勉強し、まちづくり計画とこれに沿った具体のルールをつくることが考えられます。



袖ヶ浜の屋敷林（例）



砂浜の清掃活動（例）

■例2：海岸をいつまでも美しく

平塚の海岸をいつまでも美しく保っていくことが望まれます。

このためには、砂浜の清掃など、市民の協力による活動が大きな力となります。さらに海岸の良さをもっと知ってもらうためのイベントも、愛着を高める上でも効果的です。

事業所の協力や市の支援などにより、活動の輪を広げていくことが望まれます。

■例3：ひらつかの海への誘い

ひらつかの海は、今後、さがみ縦貫道路の開通を契機に、広域から多くの人々が来訪することが期待され、こうした人たちが、ひらつかの海の良さを満喫してもらうことが望まれます。

このためには、行政だけではなく市民や事業者が協働して、魅力的で楽しい案内板やちょっとした休憩所を設置し、四季の花々によるおもてなし、海やまちを案内するボランティアガイドの存在などがあると、来訪者の心をつかみ、リピーター増につながるものと考えられます。



案内板（例）